



# 日刊動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番  
(公) 043 (222) 7207 番

96.10.25 No.4488

# いついかなる時でも ストライキに起てる体制を!

## 恒常的スト体制強化し、

# 11/10総決起を

動労千葉は、第二三回大会で、恒常的ストライキ体制を一年間を通して継続する方針を決定した。「恒常的スト体制方針」とは、①不当労働行為や組織破壊攻撃が発覚した場合、②不当な業務運営が行なわれた場合、各職場ごとに、直ちにストライキに突入するという方針だ。いついかなる時でもストライキに起ちあがることのできる組織体制・意志統一を全支部で強化しよう。職場で起きる様々な問題、当局やJR総連・革マルの動向について、どんなことでも本部に報告を集中しよう。

### 恒常的スト体制を全ての土台に

われわれは、恒常的スト体制を一切の闘いの土台にすえて、正念場の国鉄闘争勝利をめざす。国鉄闘争は、間違いなく十年間の攻防戦に決着をつける正念場を迎えている。一方で二兆円問題をはじめとした「九年度問題」の時限爆弾は導火線に火がつき、他方JR東日本の「松田・松崎・革マル体制」というあまりにも異様な結託体制も、もはやあらゆる意味で限界だ。オウムそっくりの謀略デマ運動・国労解体のファシズム運動に

のめり込む革マルと、革マルが何をやっているか百も承知しながら、死なば諸とも地獄まで手を組んでつき進もうとする東日本経営陣の姿は、明らかに「JR体制」の末路を示すものだ。われわれは、正念場の国鉄闘争の攻防の焦点は、否応なく、「政府、JR、JR総連・革マル」と「動労千葉、国労」の組織闘争になると思えきつた。敵の陣営は、亀裂を深め激しく利害をぶつけ合いながら、動労千葉・国労破壊の一点だけで利害を一致させている。しかし現在の攻撃は、切羽つまった凶暴化があるだけだ。十年前のような用意周到な準備もなければ統一した青写真も、一枚岩の体制もない。われわれがここを闘い

れば、日々足元が崩れゆくのはJR体制の側だ。恒常的スト体制の方針は、こうした情勢に対するわれわれの基本方針だ。われわれは、縦横無尽に、いついかなるときでもストライキに決起できる恒常的なスト体制を堅持し、堂々と胸をはって、この正念場を歩みぬく決意である。

### 一切の不当な攻撃がストの対象

JR総連・革マルと当局は、相互に癒着・結託し合いながら、隠然・公然に組織破壊仕掛けている。運転関係の人事異動はそのほとんどがJR総連と結託した労務政策がらみのものだ。勝浦運転区廃止攻撃はもとより、この数年間の館山運転区縮小攻撃も明らかに組織破壊攻撃である。さらに、強制配転者の塩漬けや昇進差別、脱退工作など、職場は不当労働行為の巣窟と化している。こうした一切合財の不当な攻撃のすべてがストライキの対象である。

われわれは、千葉運転区で「休日及び時間外労働一切拒否」の場合によっては指名ストライキの拡大、また幕張電車区で「有機溶材作業を再開した場合はストライキ」という闘いの火蓋をきった。そして緒戦の勝利をかちとった。闘いは開始されたばかりだ。これから勝負。本部は、いつでも次なる闘いの戦端をきる決意である。

### 怒りの声がひとつの力となった

恒常的なストライキ体制の方針によって、積みも積もった一人ひとりの怒りはひとつの力となり、団結力は守りから攻勢に転換し、当局とJR総連・革マルに対する刃に転化した。だからこの闘いは、われわれの団結の要である。「こんな不当な攻撃があった。こんな許せない業務が指示された」——この闘いは、組合員一人ひとりのこう

した怒りの声が日々創りあげてゆく闘いだ。毎日職場から寄せられる組合員の声がねりあがれば、ストライキの方針となるということだ。

この闘いで、当局やJR総連・革マルの組織破壊攻撃を封じ込め、危機にたつJR体制を打倒しよう! 恒常的スト体制を背景に、一二月ダイ改合理化組織破壊攻撃を粉碎し、強制配転をはね返し、解雇撤回闘争の勝利をたぐりよせよう! 十一・一〇全国労働者集会に総決起しよう!

## 全力で11・10!

● 11月10日 正午/日比谷野音

● (第1陣) 10:34 快速 (第2陣) 12:49 快速

工場場の国鉄闘争勝利! 第3次安保・沖縄闘争も!